

2005年度  
ユニバーサルデザインプロジェクトに取り組む子どもたちの  
意識についての調査報告  
教師の実践に関する意識調査報告

1 はじめに

ユニバーサルデザイン(以下 UD)は、女性・男性、子供やお年より、右利きの人や左利きの人、力の強い人・弱い人、障害を持つ人など、様々な人が使いやすいと思えるように製品や環境をデザインすることである。このプロジェクトは、子ども達が、「みんなが心地よく暮らせるように」、自分たちの周りの「不便」や「普通」をもう一度見直し考えを出し合い、よいものを考え出していることとするものである。

UDプロジェクトにおいて、子どもたちはUD製品やピクトグラムのコンテストを行った。本調査では、製品のアイデアを考える過程で、子どもたちはどのような意識のもとに活動していたかについて報告する。

および、教師はUDの授業を行うにあたり、どのような教育的意義を感じていたかについて報告する。

2 研究の方法

2.1 児童の意識調査

2.1.1 調査目的

UDプロジェクトに取り組む子どもたちが、どのような意識のもとに取り組んだのかについて調査をする。

2.1.2 方法

(1) 調査対象者

UDプロジェクトに取り組んだ小中学校学校児童・生徒 373名

(2) 調査期日 2006年 1月23日 から 同 3月6日

(3) 調査項目

あなたの名前を書いてください。[            ]

●これは、「ユニバーサルデザイン(UD)の活動」についてのアンケートです。「UDの活動」を通して考えたことや感じたことを思い出して答えてください。

[<例>2,すこしそう思う 答え(2)]

1,UDを考えている時にどのようなことを考えながら活動していましたか。

[1,考えていた 2,すこし考えていた 3,あまり考えていない 4,考えていない]

- (1) 体が不自由な人が使いやすいようにする
- (2) 危険がないようにする
- (3) 製品を見て使い方がすぐわかるようにする
- (4) 自分にも使いやすいようにする
- (5) これが製品になったら売れるとよい
- (6) たくさんの人に使ってもらいたい
- (7) 自分で考えたものが役立ってほしい
- (8) 見た目をおもしろいデザインにする
- (9) 見た目がきれいなデザインにする
- (10) 人や自然に害を与えないようにする
- (11) 表示がよくわかるようにする
- (12) 使い方がすぐわかるようにする
- (13) まちがった使い方をしにくくする
- (14) 長く使っても疲れないようにする
- (15) 使いやすい色や形にする
- (16) 使いやすい材料を使うようにする
- (17) こわれにくくて長く使えるようにする

2,UDの活動をして、今までと変わったことは何ですか。

[1,そう思う 2,すこしそう思う 3,あまりそう思わない 4,そう思わない]

- (1) UDの意味がわかるようになった
- (2) UDを必要としている人の気持ちがわかるようになった
- (3) UDにしたらよいと思うものに気づくようになった
- (4) 自分のUDのアイデアはよくできた
- (5) これからもUDのことを考えて生活していきたい
- (6) 自分の考えや思ったことが見た人にうまく伝わるようにしようと思った
- (7) 自分のアイデアをほかの人がみて、どう思うか気になった
- (8) 自分がやりたいと思ったことを自由に表現できた
- (10) たくさんの人たちに自分のアイデアを見てもらえてよかった

3,UDの活動について、よかったことやなおしてほしいことがあれば書いてください。

●アンケートはここまでです。

### 2.1.3結果と考察

各項目の「1、考えていた」への回答数が上位のものから順に単純集計結果を示す。

●これは、「ユニバーサルデザイン(UD)の活動」についてのアンケートです。「UDの活動」を通して考えたことや感じたことを思い出して教えてください。

[<例>2,すこし思う 答え(2)]

1,UDを考えている時にどのようなことを考えながら活動していましたか。

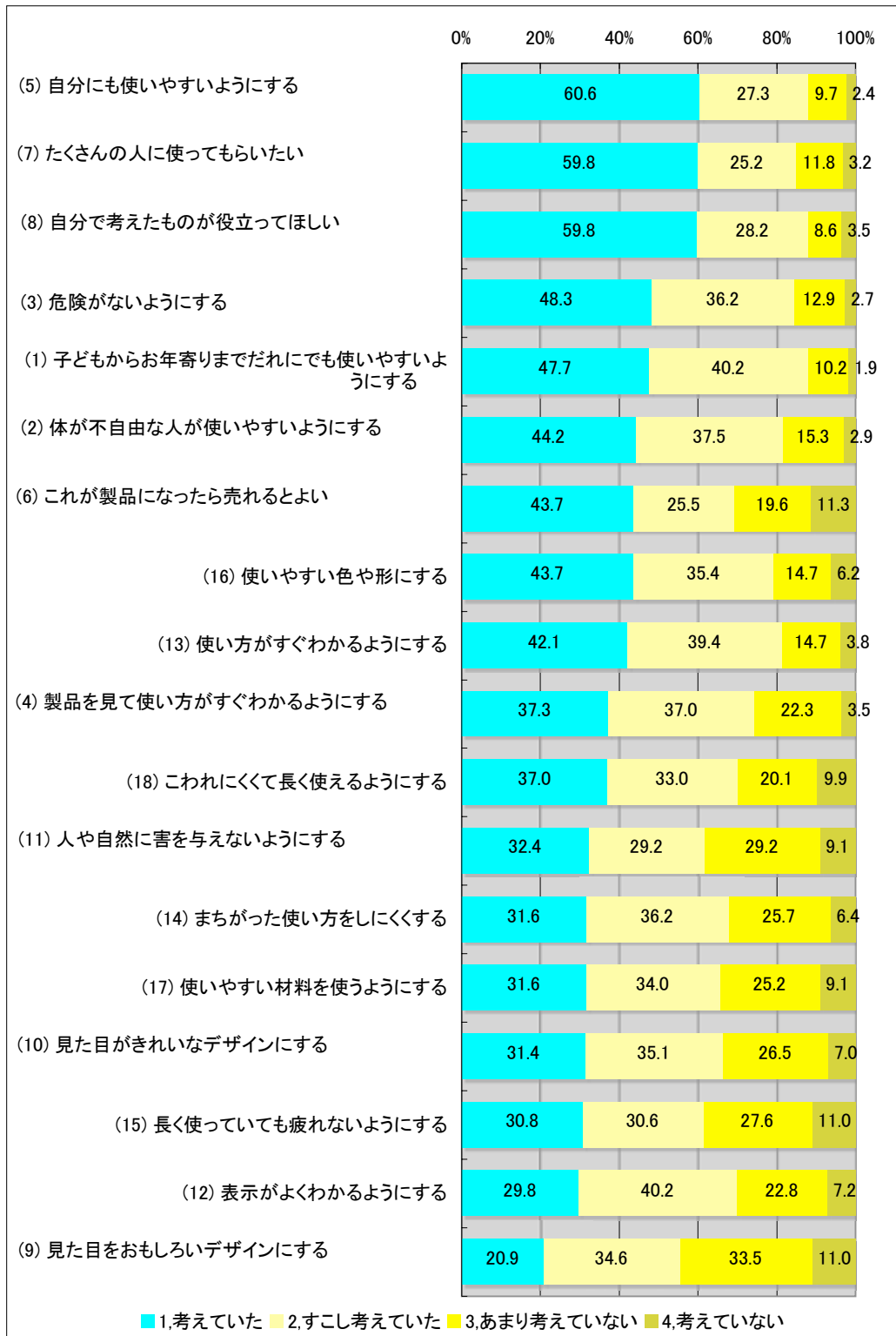
[1,考えていた2,すこし考えていた3,あまり考えていない4,考えていない]

項目整理のために、「考えていた」への回答が多いものから順に並べ直した。「(5)自分にも使いやすいようにする」「(7)たくさんの人に使ってもらいたい」「(8)自分で考えたものが役立ってほしい」という項目が並んだ。これらの項目は、UDの活動への児童・生徒らの意欲の表れと読み取ることができる。

さらに、「(3)危険がないようにする」という項目が続く。これは昨年まではあまり児童・生徒たちの意識のほりにくく「考えていた」という回答が少なかった項目であった。それが今年の結果では「考えていた」と答える児童・生徒が増えていることがわかる。これは、UDの基本概念が児童・生徒に浸透してきたことが伺える結果となった。

(上段度数、下段%)

	1,考え ていた	2,すこ し考えて いた	3,あまり 考えてい ない	4,考え ていない
(5) 自分にも使いやすいようにする	226	102	36	9
	60.6	27.3	9.7	2.4
(7) たくさんの人に使ってもらいたい	223	94	44	12
	59.8	25.2	11.8	3.2
(8) 自分で考えたものが役立ってほしい	223	105	32	13
	59.8	28.2	8.6	3.5
(3) 危険がないようにする	180	135	48	10
	48.3	36.2	12.9	2.7
(1) 子どもからお年寄りまでだれにでも使いやすいようにする	178	150	38	7
	47.7	40.2	10.2	1.9
(2) 体が不自由な人が使いやすいようにする	165	140	57	11
	44.2	37.5	15.3	2.9
(6) これが製品になったら売れるとよい	163	95	73	42
	43.7	25.5	19.6	11.3
(16) 使いやすい色や形にする	163	132	55	23
	43.7	35.4	14.7	6.2
(13) 使い方がすぐわかるようにする	157	147	55	14
	42.1	39.4	14.7	3.8
(4) 製品を見て使い方がすぐわかるようにする	139	138	83	13
	37.3	37.0	22.3	3.5
(18) こわれにくくて長く使えるようにする	138	123	75	37
	37.0	33.0	20.1	9.9
(11) 人や自然に害を与えないようにする	121	109	109	34
	32.4	29.2	29.2	9.1
(14) まちがった使い方をしにくくする	118	135	96	24
	31.6	36.2	25.7	6.4
(17) 使いやすい材料を使うようにする	118	127	94	34
	31.6	34.0	25.2	9.1
(10) 見た目がきれいなデザインにする	117	131	99	26
	31.4	35.1	26.5	7.0
(15) 長く使っても疲れないようにする	115	114	103	41
	30.8	30.6	27.6	11.0
(12) 表示がよくわかるようにする	111	150	85	27
	29.8	40.2	22.8	7.2
(9) 見た目をおもしろいデザインにする	78	129	125	41
	20.9	34.6	33.5	11.0

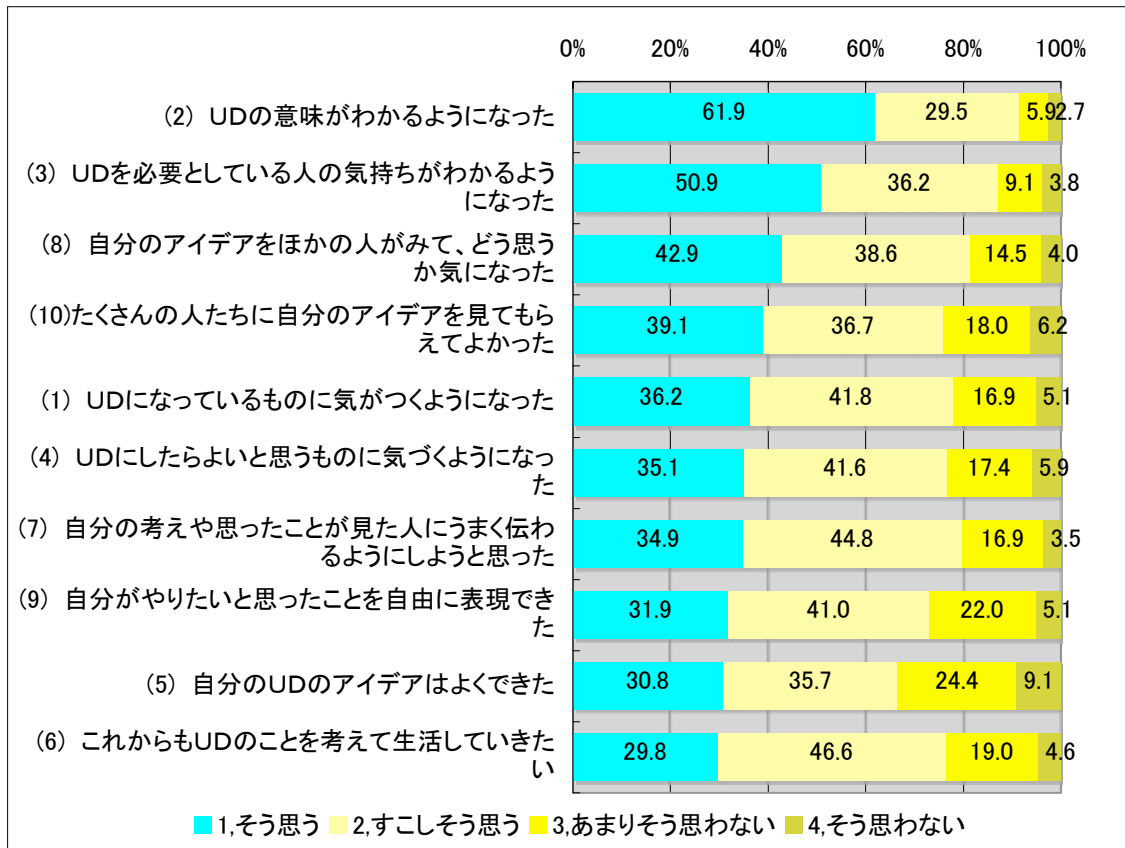


2,UDの活動をして、今までと変わったことは何ですか。

上位には、「(2) UDの意味がわかるようになった」「(3) UDを必要としている人の気持ちがわかるようになった」という項目が並んだ。教師向けのアンケートでは、「子どもたちのUDを見る目が変わってきた。これが成果である。」という回答が見られた。UDの活動は、UDの概念を理解した上で活動していくことが大切になるが、UDは非常に難しい。それを調べ学習やゲストティーチャーなどの力をえることによって、子どもたちの理解を促進していったことが結果となって表れている。この子どもたちの視線の変化が学びとなっていることがわかる。

(上段度数、下段%)

	1,そ う思う	2,す こし そう 思う	3,あ まり そう 思わ ない	4,そ う思 わな い
(2) UDの意味がわかるようになった	231 61.9	110 29.5	22 5.9	10 2.7
(3) UDを必要としている人の気持ちがわかるようになった	190 50.9	135 36.2	34 9.1	14 3.8
(8) 自分のアイデアをほかの人がみて、どう思うか気になった	160 42.9	144 38.6	54 14.5	15 4.0
(10) たくさんの人たちに自分のアイデアを見てもらえてよかった	146 39.1	137 36.7	67 18.0	23 6.2
(1) UDになっているものに気がつくようになった	135 36.2	156 41.8	63 16.9	19 5.1
(4) UDにしたらよいと思うものに気づくようになった	131 35.1	155 41.6	65 17.4	22 5.9
(7) 自分の考えや思ったことが見た人にうまく伝わるようにしようと思った	130 34.9	167 44.8	63 16.9	13 3.5
(9) 自分がやりたいと思ったことを自由に表現できた	119 31.9	153 41.0	82 22.0	19 5.1
(5) 自分のUDのアイデアはよくできた	115 30.8	133 35.7	91 24.4	34 9.1
(6) これからもUDのことを考えて生活していきたい	111 29.8	174 46.6	71 19.0	17 4.6



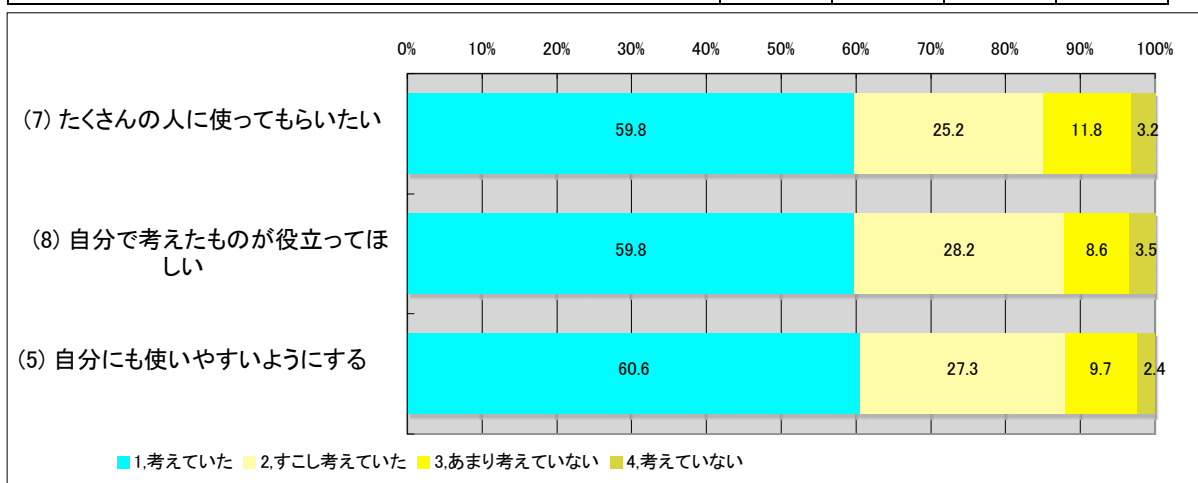
さらに、UDの活動を掘り下げるために、設問1「1, UDを考えている時にどのようなことを考えながら活動していましたか。」、設問2「2, UDの活動をして、今までと変わったことは何ですか。」にわけて、設問全項目に対して、クラスター分析（平方ユークリッド距離、ワード法）を施した。

1,UDを考えている時にどのようなことを考えながら活動していましたか。

[1,考えていた2,すこし考えていた3,あまり考えていない4,考えていない]

第1クラスタは、「(7) たくさんの人に使ってもらいたい」「(8) 自分で考えたものが役立ってほしい」「(5) 自分にも使いやすいようにする」という項目で形成された。約60%の児童・生徒が「考えていた」と答えている。これらの項目群はUDの基本概念の中で一番強調されるものである。当然、教師もこのことを強調するし、子どもたちもそのように理解して活動していたことがわかる。

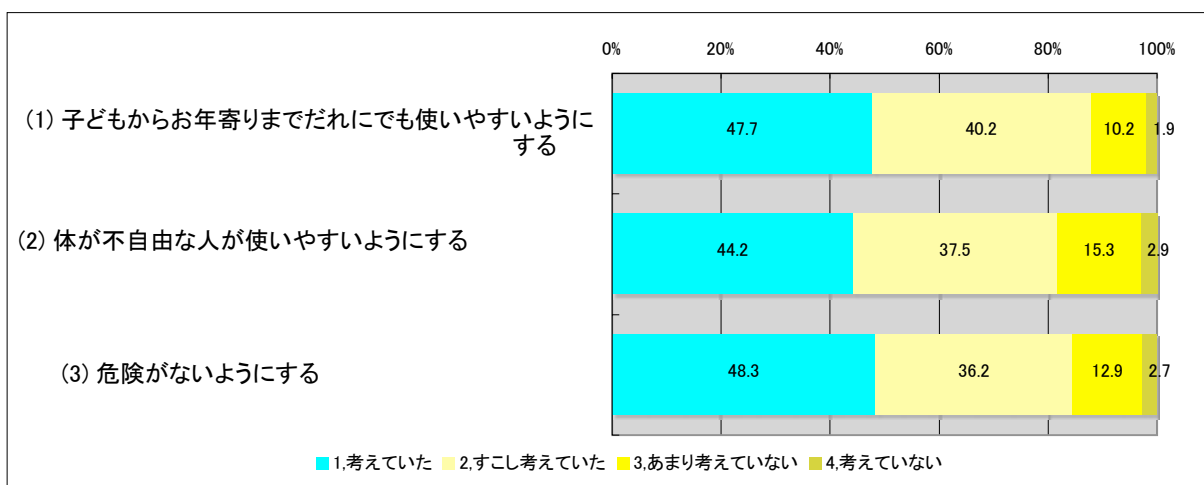
	1,考えていた	2,すこし考えていた	3,あまり考えていない	4,考えていない
(7) たくさんの人に使ってもらいたい	59.8	25.2	11.8	3.2
(8) 自分で考えたものが役立ってほしい	59.8	28.2	8.6	3.5
(5) 自分にも使いやすいようにする	60.6	27.3	9.7	2.4





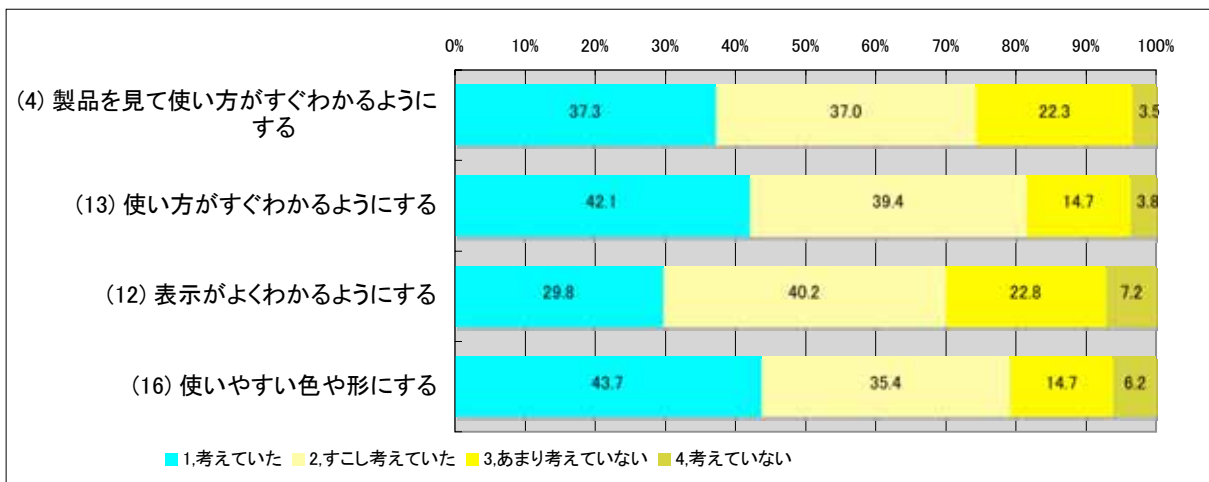
第2のクラスタには、「(1) 子どもからお年寄りまでだれにでも使いやすいようにする」「(2) 体が不自由な人が使いやすいようにする」という項目が来ている。いわゆるハンディキャップがある人への配慮を考えていたことがわかる。さらに、前述した「危険がないようにする」という項目がある。第1クラスタの項目に対して、やや数字が落ちるものの、UDの概念をよく理解して活動していたことがわかる。

	1,考えていた	2,すこし考えていた	3,あまり考えていない	4,考えていない
(1) 子どもからお年寄りまでだれにでも使いやすいようにする	47.7	40.2	10.2	1.9
(2) 体が不自由な人が使いやすいようにする	44.2	37.5	15.3	2.9
(3) 危険がないようにする	48.3	36.2	12.9	2.7



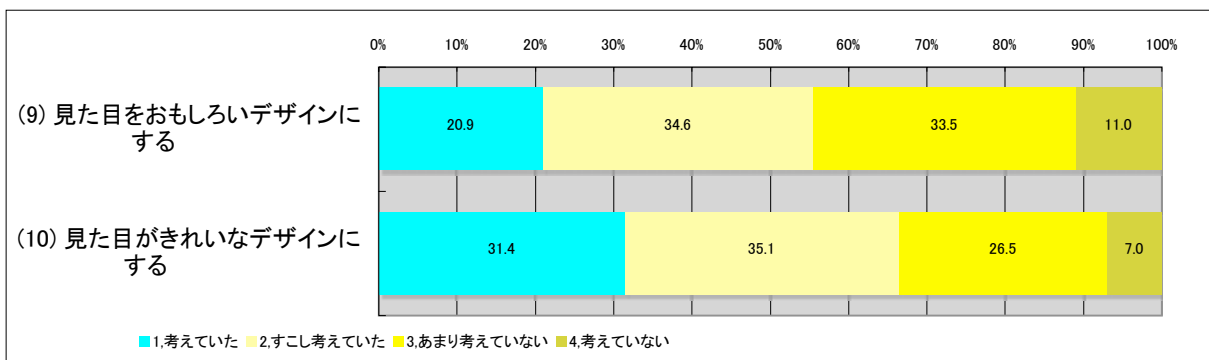
第3クラスを形成するのは「(4) 製品を見て使い方がすぐわかるようにする」を中心とした項目である。この概念もUDを考える上で重要ではあるが、他の項目に比べてやや不満が残る結果と考えられるであろう。今年度は、ピクトグラムを考える活動も含まれたいた。指導の余地がこのあたりにあると思われる。

	1,考えていた	2,すこし考えていた	3,あまり考えていない	4,考えていない
(4) 製品を見て使い方がすぐわかるようにする	37.3	37.0	22.3	3.5
(13) 使い方がすぐわかるようにする	42.1	39.4	14.7	3.8
(12) 表示がよくわかるようにする	29.8	40.2	22.8	7.2
(16) 使いやすい色や形にする	43.7	35.4	14.7	6.2



第4クラスは、「(9) 見た目をおもしろいデザインにする」「(10) 見た目がきれいなデザインにする」で形成された。これらの項目に対して、「あまり考えていなかった」とする回答が多いことがわかる。これは、「見た目はあまり考えていなかった」のか、「使いやすさ」に注目する中で気にしなかったのか、あえて考えから外したのかは不明である。しかし、製品開発、デザイン開発という視点では少し物足りないものを感じる。

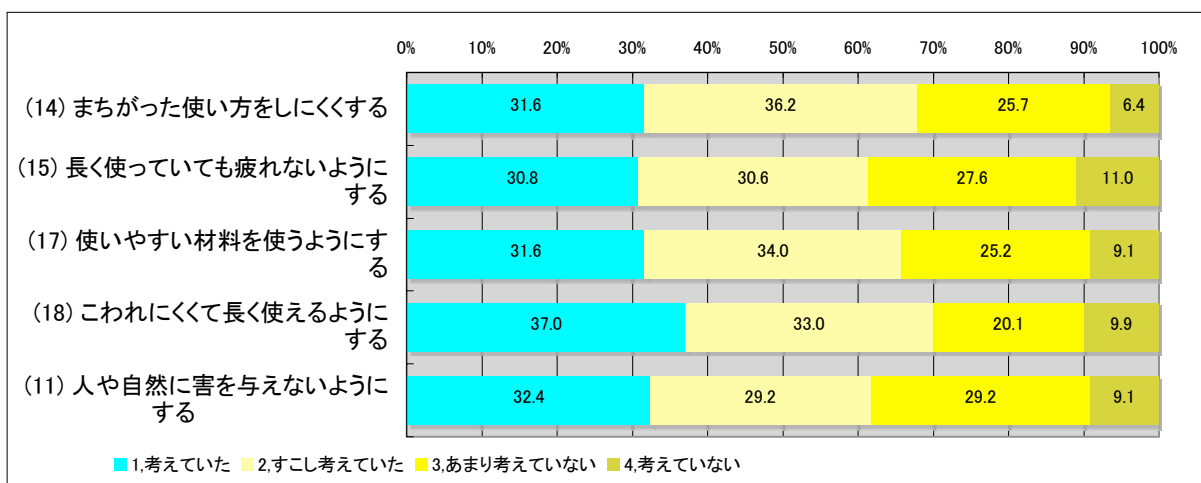
	1,考えていた	2,すこし考えていた	3,あまり考えていない	4,考えていない
(9) 見た目をおもしろいデザインにする	20.9	34.6	33.5	11.0
(10) 見た目がきれいなデザインにする	31.4	35.1	26.5	7.0



第5クラスには、フェイルセーフの問題や、耐久性、使用時の疲労感、自然環境への配慮などの意味を含んだ項目が並んだ。これらに対して、「考えていた」が約30%、「少し考えていた」まで含めても70%という結果を得た。数年前にこのDプロジェクトのUDの活動をの調査を行っている。始めた当初に比べてこの割合は増えてきているが、まだまだという結果であると考えている。

UDには、多岐にわたる概念を内包していて、児童・生徒にはその全てを理解させることは非常に難しい。しかし、指導者の方で、「使いやすさ」を強調しすぎているきらいがあるのではないだろう。せっかくUDに取り組む機会を得たのであるから、指導者側もUDの様々な意味を理解させるよい機会と考えて、活動を支援することが大切であると考えている。

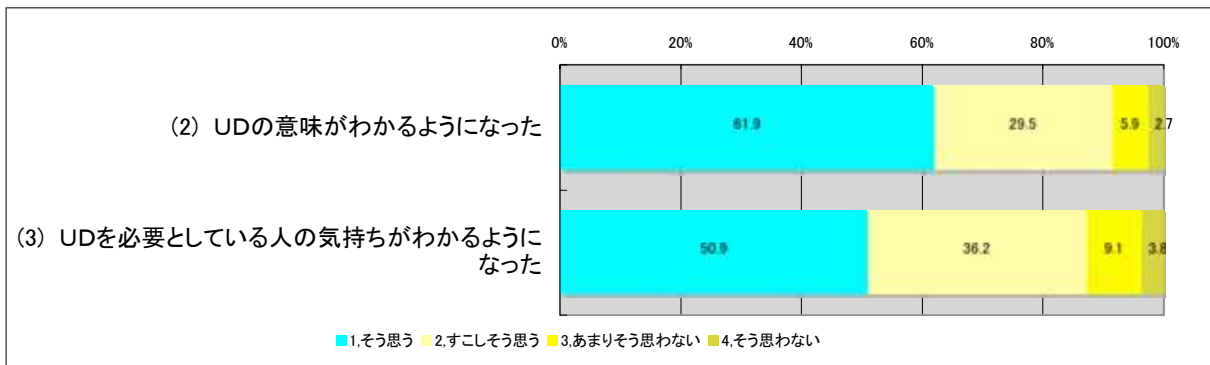
	1,考えていた	2,少し考えていた	3,あまり考えていない	4,考えていない
(14) まちがった使い方をしにくくする	31.6	36.2	25.7	6.4
(15) 長く使っても疲れなくにする	30.8	30.6	27.6	11.0
(17) 使いやすい材料を使うようにする	31.6	34.0	25.2	9.1
(18) こわれにくくて長く使えるようにする	37.0	33.0	20.1	9.9
(11) 人や自然に害を与えないようにする	32.4	29.2	29.2	9.1



2,UDの活動をして、今までと変わったことは何ですか。

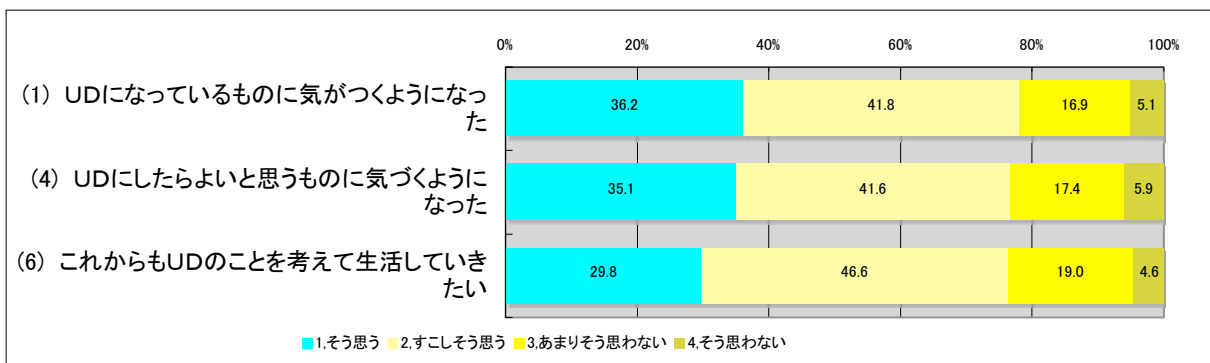
指導者へのアンケートでは「子どもたちの見目が変化した」という報告があった。「視点が変わること」が学びに繋がっているということである。子どもたち自身も「(2) UDの意味がわかるようになった」「(3) UDを必要としている人の気持ちがわかるようになった」と考えていて、自分の変化に気づいていることがわかる。

	1,そう思う	2,すこし そう思う	3,あまり そう思わ ない	4,そう思 わない
(2) UDの意味がわかるようになった	61.9	29.5	5.9	2.7
(3) UDを必要としている人の気持ちがわかるようになった	50.9	36.2	9.1	3.8



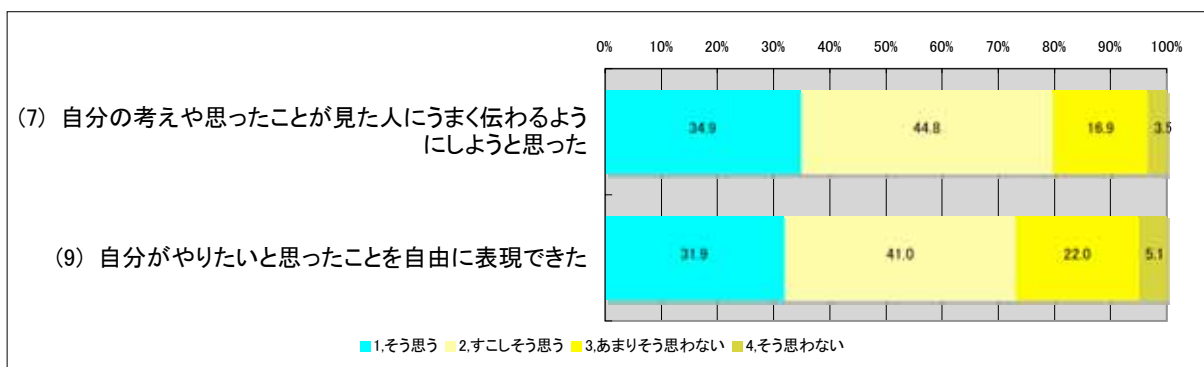
第2クラスには、「(1) UDになっているものに気がつくようになった」「(4) UDにしたらよいと思うものに気づくようになった」「(6) これからもUDのことを考えて生活していきたい」という項目が並んだ。UDの概念を理解して、それが日常化したことを伺える結果となっている。

	1,そう思う	2,すこし そう思う	3,あまり そう思わ ない	4,そう思 わない
(1) UDになっているものに気がつくようになった	36.2	41.8	16.9	5.1
(4) UDにしたらよいと思うものに気づくようになった	35.1	41.6	17.4	5.9
(6) これからもUDのことを考えて生活していきたい	29.8	46.6	19.0	4.6

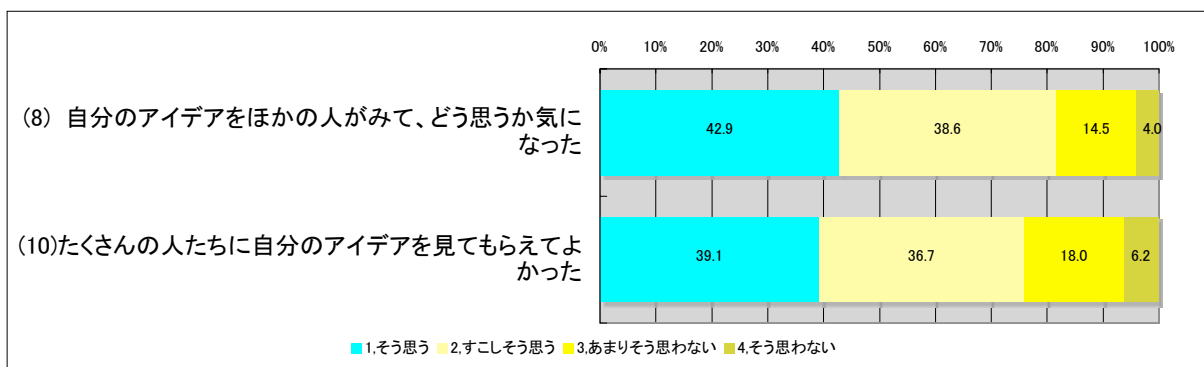


以下、第3、第4、第5クラスは、自分の作品やアイデアに対する自己評価を聞いている項目が並んだ。「(7) 自分の考えや思ったことが見た人にうまく伝わるようにしようと思った」など、他の人の目を意識しているかということは、「気にはしていた」と答えている割合が多いことがわかる。最後の、「(5) 自分のUDのアイデアはよくできた」という項目があがるような授業設計等を考える必要があると思われる。

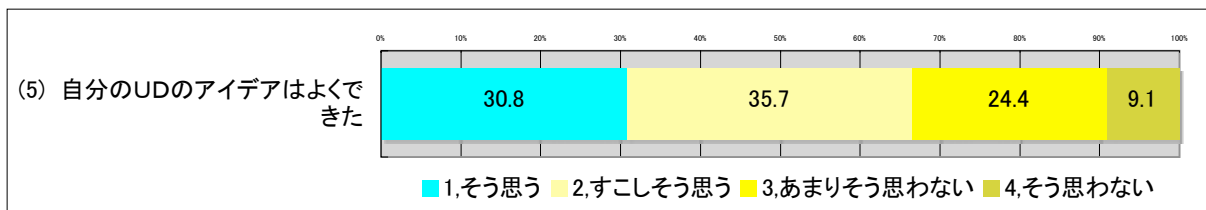
	1,そう思う	2,すこし そう思う	3,あまり そう思わ ない	4,そう思 わない
(7) 自分の考えや思ったことが見た人にうまく伝わるようにしようと思った	34.9	44.8	16.9	3.5
(9) 自分がやりたいと思ったことを自由に表現できた	31.9	41.0	22.0	5.1



	1,そう思 う	2,すこし そう思う	3,あまり そう思わ ない	4,そう思 わない
(8) 自分のアイデアをほかの人がみて、どう思うか気になった	42.9	38.6	14.5	4.0
(10) たくさんの人たちに自分のアイデアを見てもらえてよかった	39.1	36.7	18.0	6.2



	1,そう思う	2,すこし そう思う	3,あまり そう思わ ない	4,そう思 わない
(5) 自分のUDのアイデアはよくできた	30.8	35.7	24.4	9.1



## 2.2 教師の意識調査

### 2.2.1 調査目的

ユニバーサルデザイン(以下 UD)プロジェクトに取り組んだ教師が、どのような意識のもとに取り組んだのかについて調査をする。

### 2.2.2 方法

#### (1) 調査対象者

UDプロジェクトの授業を行った教師 11名

(2) 調査期日 2006年 1月23日 から 同 3月6日

#### (3) 調査項目

● これは、「ユニバーサルデザインの活動」についてのアンケートです。「ユニバーサルデザインの活動」を通して考えたこと感じたことを思い出して教えてください。選択肢の解答は、その番号の前に○をつけてください。

<例：○1、そう思う>

(1) 授業へはどのような形で提案しましたか。(複数解答可)

- 1、総合的な学習の時間から
- 2、国語科から
- 3、福祉的面から
- 4、図工から
- 5、美術から
- 6、その他( )

(2) 授業の導入をどのように行ったか書いてください。

(3) 子ども達は興味をもって活動していましたか

- 1、 そう思う
- 2、 すこしそう思う
- 3、 どちらでもない
- 4、 あまりそう思わない
- 5、 そう思わない

(4) ユニバーサルデザインの授業の教育的意義をどのようにお考えですか。

(5) ユニバーサルデザインの授業後の子どもたちの変化を書いてください。

### 2.2.3結果と考察

教師の回答の主なものを列記する。

#### (1)授業へはどのような形で提案しましたか。(複数解答可)

ほとんどの場合、総合的な学習から入っている。ただ、国語科からのアプローチが増えて来ている。国語の題材に、「福祉」を扱ったものが増えたり、「UD」を直接取り上げたものが出て来たりするためであろう。

1、総合的な学習の時間から

1、総合的な学習の時間から  
2、国語科から

1、総合的な学習の時間から  
2、国語科から  
3、福祉的面から

1、総合的な学習の時間から

2、国語科から

1、総合的な学習の時間から

6、その他(技術科のものづくりの観点から)

1、総合的な学習の時間から  
6、その他(学級活動:同和教育の視点で)

1、総合的な学習の時間から

1、総合的な学習の時間から  
2、国語科から

1、総合的な学習の時間から  
2、国語科から



(2)授業の導入をどのように行ったか書いてください。

国語を導入に使っているケースが多いことがわかる。UDキットの重要性も上げられている。

コクヨの生方さんによる指導

手と心で読むを読んだ後、「世の中には目が見えない事以外のことで不自由があるよね」と言っているいろいろな不自由さをみんなで出しあいました。そこからUDの説明を簡単にして、調べ学習を始めました。

国語科「『伝え合う』ということ」という単元で、点字など、体の不自由な人のために工夫されているものや施設を調べ、発表し合った。その中に、本人は気付いていなかったがUDに関して調べているグループがいたので、取り上げて、そこからUDの学習へと入っていった。

K市を知ろうという総合学習から金沢にある2つの美術館を比較することでUDの考え方に気づかせた。

国語の単元「みんなで生きる町」の学習を通じて、UDの内容を理解していった。

UDキットを使って、児童にA(ふつうのマグネット)とB(プニョプニョマグネット)を提示した。そしてそのAとBを軍手をはめた手で確かめたり、素手で確かめたりして、取り外ししやすい方に投票するようにしました。(事前に高齢者疑似体験を行っており、軍手をはめた手がお年寄りの感覚とにしていることを児童はかんじていました。)結果はその日授業に参加した37人全員がBのプニョプニョマグネットを選んでいました。その後、プニョプニョマグネットがふつうのマグネットとどのように違うのかをグループごとに話し合い、全体の場で発表し合いました。

・バリアフリー社会の必要性の理解(2時間)  
・車いすの分解整備(20時間)  
・車いすの体験走行(1時間・導入1)  
・デフブラ体験と点字の学習(1時間・導入2)  
ものづくりの観点からバリアフリーやUDの必要性を体験させることで導入とした。

1. UDの磁石を見せて興味を持たせた後、軍手を二重にはめた状態でふつうの強力磁石と外し易さを比較する。
2. デザインに違いがある子とに気づいた子がいたので、「ユニバーサルデザイン」という名前と基本的な考え方を知らせる。
3. 様々な文房具で、UDと普通の物の使用感を比べて感想を話し合う。

視覚障害・養護学校・老人ホームの方たちとの交流から、バリアフリー、そして、UDの学習と移っていった。UDの意味を知らせ、UD製品を体験しそのよさを体験した。

自分たちの住む町や地域を見つめ直し、

国語科「みんなで生きる町(光村図書)」の学習後、内容を発展的に取り扱った。

(3)子ども達は興味をもって活動していましたか

子どもたちの興味関心の高さを教師たちが感じていたことがわかる。

1、そう思う

1、そう思う

1、そう思う 特に、身の回りにあるものの中から探す活動と自分でUD商品を考える活動では、積極的に活動していた。

1、そう思う

2、すこしそう思う

1、そう思う

1、そう思う

1、そう思う

1、そう思う

1、そう思う

1、そう思う

(4)ユニバーサルデザインの授業の教育的意義を書いてください。

さまざまなかたちの教育的意義を教師は感じている。

- ・視点の変化をあげてる教師が非常に多い。
  - ・主体的に考えることができるようになったこと。
  - ・UDの考え方の将来的な重要性。
- などをあげている。

人を思いやる気持ち、人生を豊かに生きていくことを考えさせるという意味でも 有効だったと思います。共生を学年で考えることができたこともよかったことです。

「誰かのために」「何かをできやすいように」というUDの基本的な考え方は子どもたちに人とのかわり方を見直す際に、とても大切なキーワードだと思います。

- ・ユニバーサルデザインについて、深く理解することができる。(実際に、身の回りから探して紹介し合ったり、自分でユニバーサルデザイン商品を考えたりする活動を通して、何度も「誰もが」「使いやすく」「すぐに」「安全に」のキーワードに立ち戻って見直すことができ、真の理解につながったと考える。)
- ・見える人だけでなく見えない人のことを思いやる心が育つ。(ユニバーサルデザインの商品を考えたり見直したりする活動では、多くの人々の立場になって考えたり、身近な人に気持ちを聞いたりした。道徳以外で、自分以外の人の気持ちをじっくりと、しかも主体的に考えることはあまりないと思う。とてもよい経験であった。)
- ・また、みんな一人一人、考えや思いが違うということを学び、相手の考えを尊重する心が育つ。(UD商品を考える活動で、生み出す苦労をクラス全員が経験しているので、その後の発表では、友達の考えを共感的に受け止めようとする姿が見られた。)

新しい視点でものを見ることができる。  
アイデアを練り上げる活動の中で関わり合いが深くなる。

UDの考え方は、これからの社会では、大切な考え方です。日本には、だれもが地域の中で普通に共生できる環境はまだ不足している部分が多くあります。外国ではそれが当たり前という国もあるそうなので、子ども達への提案としてはよいと思いました。ただ、自分たちがデザインしていくとなると難しさがありました。自分たちがそれほど困ったという経験がなく、どんどん自分のスピードに関係なく新しいものが出てきているからです。

自分が考えたUDをいかに伝えるかという面では、有意義だったと思います。自分の意見を発信するだけでなく、相手からの質問や意見に答えなければならないのですから。その独自の考えなので、他に頼らず述べないと伝わらないのですから、「伝え合う」力をつけるためには有意義だったと思います。

より多くの児童が不便に感じないものに目を向けて、考えていくことで、「一部の人間だけでなく、みんなが幸せに感じることができる世の中を目指す。」という気持ちを持つことの大切さに気付けるようになっていくことが、児童の社会性を育てることにつながると私は考えます。

・これからの高齢社会を乗り切る上では、社会のUD化が必要である。それゆえ、UDの重要性を知らせることが大切。  
・高齢社会への起業として、UDのものづくりに対する可能性が大きい。以上の2点から、ものづくりにおけるUDは、非常に重要な視点になると考える。

誰もが安心して暮らせることの大切さを知り、そのために努力している人や様々な工夫があることがわかる。また、相手の立場を考えて行動しようとする心(心のユニバーサルデザイン)の大切さを理解し、自分の行動を変えていこうとする意欲につながる。

人権感覚の素地を作るのに大変効果的だと思う。だれにとってもやさしいものを考えることは、だれにとってもやさしい人づくりにつながります。

発想の転換、一つのことを多角的な面で見ることができる。  
相手の立場に立って考えることができる。  
インタビューや調査活動を行い自分の考えを確かめることができる。  
UD製品を考えることを通して思いやりの心をもつ」「UD製品を考えることを通して児童自らが将来の社会に対して誰もが住みやすいという視点をもつようになったと考えている。

自分たちの生活や環境をあらゆる人の立場で見直すことができるようになり、よりよい町づくりについて考え、提案することができるようになる。

(5)ユニバーサルデザインの授業後の子どもたちの反応を書いてください。

UDに取り組んだことでの子どもたちの変化を教師は様々な形で感じている。とくに、UDという言葉に敏感になったという報告がたくさんあげられている。

学習していく中で、自分以外に目を向けることができることもが、少しずつ増えたように思います。急にはわかりませんが、こうしていい刺激を与えることは大切な教育活動だと思っています。

自分が不自由になった子どもたちが少ない中、不自由な体験を通して体が不自由な人の目線に少しでもたって商品を考えることができたのではないかと思います。今、4年生です。6年生の国語のUDの学習で、心のUDを実践できていればと願っています。

- ・「先生、これ、UD?」といって学校に持ってきたり、「昨日、UD見付けたよ。」などとみんなに紹介したりなど、学習が終わってもUD商品に対して興味をもち続けている。そして、何よりも、UD商品に対して敏感になった。
- ・友達同士で意見を言い合ったときには、お年寄りの気持ちや体の不自由な人の気持ちになってアドバイスしたり質問したりできるようになった。
- ・児童アンケートの中に、「ものを作る人は、大変だと思った。」という感想をもつ子供がいた。作り手の気持ちも味わうことができるようになったのは、よい経験だったと感じる。

ものを見るときに誰のために作られているのか、本当に役立っているのかという視点が加わった。今ある物でもこんな風に工夫すると・・・というような思考の柔軟さが生まれた。

UDについては、気づいてくれるようになりました。

また、自分の作品をどのようにアピールするか考える子も出てきました。そう意味では、自分の考えを伝える力がついてきたのかなあとと思います。

UDに非常に興味を持ったと思います。ココヨのパンフレットを私が紹介すると、みんながそのパンフレットに群がり、その日のうちにお店に実際に見に行く児童がいました。値段の高さには少し驚いていましたが。

身近な生活の中にも、バリアフリーやUDの考えがあることに非常に興味を持つようになった。

- ・聞き手のことを考えて大きな声でゆっくりはっきり話そうとするようになった。
- ・いろいろなユニバーサルデザインの物に興味を示すようになった。

自分たちにもできることはないかを考え、今回は各教室の看板(ピクトグラム)づくりに取り組み、それが役に立ったことで、子どもたちなりに十分満足し、学びが生活につながった。

活動をすることで、身のまわりのものにたくさん不便なものがあるものを見る目がついてきた。

UDの理解が深まると共に、身の回りのものをUDの視点で見られるようになり、困っている人や弱い立場の人に進んで手を貸してあげられるようになった。また、身の回りの物のデザインや機能性に興味をもつようになった。

### 3 総合考察

以上、児童向けアンケートと教師向けアンケートの集計考察を進めてきた。

児童は「使いやすいように作る」とい意識が強いことがわかる。昨年度までの調査では、この作りやすさの追求にとられすぎて、安全面や環境への配慮にややかける傾向があった。しかし、今年度のデータをみると、安全面に対する配慮の項目がよくなってきている。このことは大きな成果と考えられる。

ただ、環境への意識はまだまだというところである。UDには、「7つの原則」というものが存在する。これにそったもの作り・社会作りを学ぶという目的がある。そうになってしまう原因として、教師の指導姿勢も原因として考えられる。教師も児童もこの「7つの原則」にたえず立ち返り、確認しながら活動を進めていくことが重要なのではないかとさらに考えている。

教師は、このUDの活動を単なるもの作りの活動ではなく、その裏に「人を思いやる心」の大切さを感じてほしいと感じていた。さらに、作り手の使う人への配慮を感じてほしいと考えていた。このことが明確な形で成果となって表れなければならないと感じている。このことを、今回のUDの調査において、明らかにしようと考えた。結果は、概ね良好なものとなっている。この点さらに明らかにしていかなければならない。これが今後の課題と考えている。

### 4 最後に

この調査結果報告書が、UDプロジェクトの活動の新たな展開を切り開くものになれば幸いと考えている。